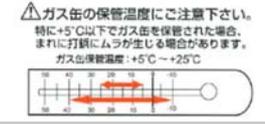




GX 製品ご使用時の注意点

症状	対応内容	
打釘しない 打釘不良	<p>□ガス缶がセットしたままでした。ガス缶は取り外して保管ください。 * 打釘不良や本体故障の原因となります。</p> <p>□ガス缶を抜き差ししてください。 改善しない場合は新しいガス缶に交換してください。 * 本体内部のガス圧が高くなっていたり、正しく装着出来ていないことがあります。 また、ガス缶の容量が無くなっていることもあります。</p>	 <p>ガス缶を取り外す</p>
	<p>□GX 120をご使用の場合はガス缶アダプターを装着してください。 * ガス缶を正しい位置に装着できます。</p>	 <p>GC20用アダプター</p>
	<p>□常温で打釘しない場合は、新しいガス缶に交換してください。 低温の場合は人肌で温めてください。(目安5°C~25°C) * ガス缶の品質が低下しています。</p> <p>□使用期限をご確認ください。 期限切れの場合は、新しいガス缶に交換してください。 * ガス缶の品質が低下しています。</p>	<p>△ガス缶の保管温度にご注意下さい。 特に+5°C以下でガス缶を保管された場合、 まれに打釘にムラが生じる場合があります。 ガス缶保管温度 +5°C ~ +25°C</p>  <p>使用期限</p> 
	<p>□ガス缶を装着後は、3回接触圧を掛けてください。 * 装着直後は、本体内部に十分にガスが充填できていません。</p> <p>□打釘時は正しい手順で打釘してください。 トリガーを押して接触圧をかけた場合は安全装置が反応し打釘できないことがあります。</p> <p>① 接触圧を十分に掛ける。 ② トリガーを押し打釘する。 ③ 接触圧を解放する。 ④ トリガーを解放する。</p>	<p>3回押す</p>  
	<p>□正しい打釘姿勢での施工をご確認ください。 * 無理な姿勢での打釘、斜め打釘、押さえつけが弱い、早打ちにより安全装置が反応することがあります。</p> <p>□HILTI純正品のガス缶、ピンをご使用ください。</p> <p>□吸排気口を手で押さえしていないかご確認ください。 * 吸排気が不十分な場合、打釘不良や抑えに抵抗がかかります。</p>	 <p>吸排気口を押さない</p>
打釘不良	<p>□マガジンやファスナーガイドのプラスチック片を除去してください。 本体ケース内の小物は袋に入れてください。 * ネイルの発射時に抵抗となることがあります。</p> <p>□母材の材質、厚みが適正範囲かご確認ください。</p>	 <p>マガジンにピン詰り</p>
ピストンが 戻らない	<p>□ドリフトパンチを使用してピストンを戻してください。 * プラスチック片が詰まるとピストンが出たまま戻ってきません。</p>  <p>ドリフトパンチ X-120 NP キット(品番2157088)</p> 	